

7カ所しかない
公立保育所

どうして

4カ所も
なくすの？
(21年度から)

公立保育所は地域にとって必要な存在です

7つの公立保育所では

- 保育士、看護師、調理員と経験豊かな職員が揃っています。
- 自園給食で、離乳食も月令に合わせてきめ細かく作っています（アレルギー対応もしています）
- 地域開放事業が全園で行われ、地域の方の子育ての悩みにこたえています。

公立保育所の役割は重要

公立保育所は、その運営、保育条件、保育内容に市が直接責任を負う施設です。又、その地域全体の子育てに責任を持つ意味もあります。

公立保育所は公共性・平等性があり、どの地域でも同じ保育条件が求められています。地域に身近な存在として、本来ならもっと必要なのに、今なぜ4ヶ所も減らすのでしょうか？

（私立はそれぞれ特色があり、利用者はそれを選んで入所しています）



保育・子育て支援の 予算を増やして!

子どもは社会全体で育てるものです。子どもの保育は公的責任において実施していくのが本来の姿です。公立も私立も、子どもの育ちを保障する為の財源は必要であり、社会的に必要なコストです。少子化の今こそ子育て支援のための予算をもっと増やすべきです。

市の計画(案)は

「門真市は財政難だからお金を効率的、効果的に使うとし、市立保育所と私立保育所の役割を分担し、市立の一部を私立保育所にすることで、柔軟かつ速やかに地域の保育サービスに対応する」、「門真市全体の保育水準を高め、子どもたちにとっての保育環境の向上に寄与する」としています。



民営化によって傷つけられた子どもたち・問題がいっぱい

大阪ではすでに60カ所以上の民営化が進められてきました。その中で公立から私立に変わることにより子どもたちに与える影響の大きいことがわかってきています



「ぼくたちが、いい子にしていなかったから先生みんないなくなるの？」
「先生いつ帰ってくるの？」と先生がいなくなった理由はわからず、戸惑ったり、不安がったりする子どもたち



先生の数が公立の時より少なくなった

今まで子育てについての悩みを聞いてもらっていたが、相談する先生がいない



夜泣きが続いたり、保育所に行きたがらず、登園時にぐずったり泣いたりして安心して仕事に行けない

ケガが急増する。なぜケガしたのか報告されない

経験の浅い先生が多く、短期間でコロコロ変わる通っている子どもの事を知らない先生ばかりで不安



公立の時に配置されていた看護師が配置されない

給食が自園給食から外部委託になった

※民営化された全ての園で起こっている訳ではありません。

私たち利用者の声を無視して一方的に決めないで

〈公立保育所利用者の声〉

- 公立を選んで入所したのに、途中で民間に変わるなんて寝耳に水だし、納得できない。
- 民営化する理由、民営化で何が良くなるのか、保育料以外に負担が増えるのか？先生の数？看護師の配置はされるのか。自園給食を守り、アレルギー対応もしてくれるのか今だに納得のいく説明がない。一方的にすすめられるのは反対。
- 他市の例を見る限り、良い方法とは思いません。財政難だからと言って子どもに関わるお金を削るのはこれからも門真市に住んでいく上で非常に不安です。
- 民営化するより、今の公立保育所をより良くしてほしい。（施設改善、休日保育、病後児保育など）
- 自分の大切な子どもを安心して預けるには、やはり信頼できる先生がいるからこそだと思います。（経験豊かな先生、看護師など）今の公立は経験豊かな先生もいて安心して働きに行けます。
- 今まで築いてきた子どもたちや親たちと先生との信頼関係を壊さないでほしい。
- 経験豊かな先生方に相談してきた事が沢山あったのに、先生が変わると相談しようと思わない。



保育所の 民営化って何？



運営を市から民間（社会福祉法人）に変える事で、全く違う保育所になります。保育士も全員入れ替わります。民営化は、政府の「官から民へ」という構造改革、規制緩和で保育に市場化、競争をもち込もうとする流れの中で起こっています。

公立を選んで入所させた親の気持ち、継続した保育を受けられなくなる子どもたちの気持ちはどうなるのでしょうか？